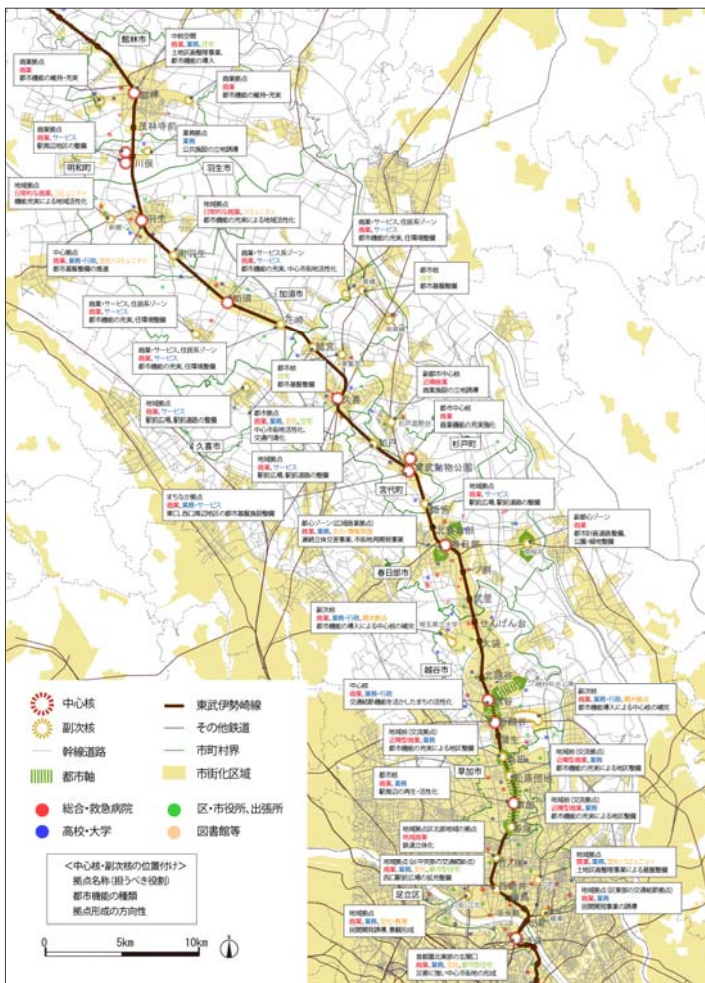


沿線地方公共団体の将来都市像

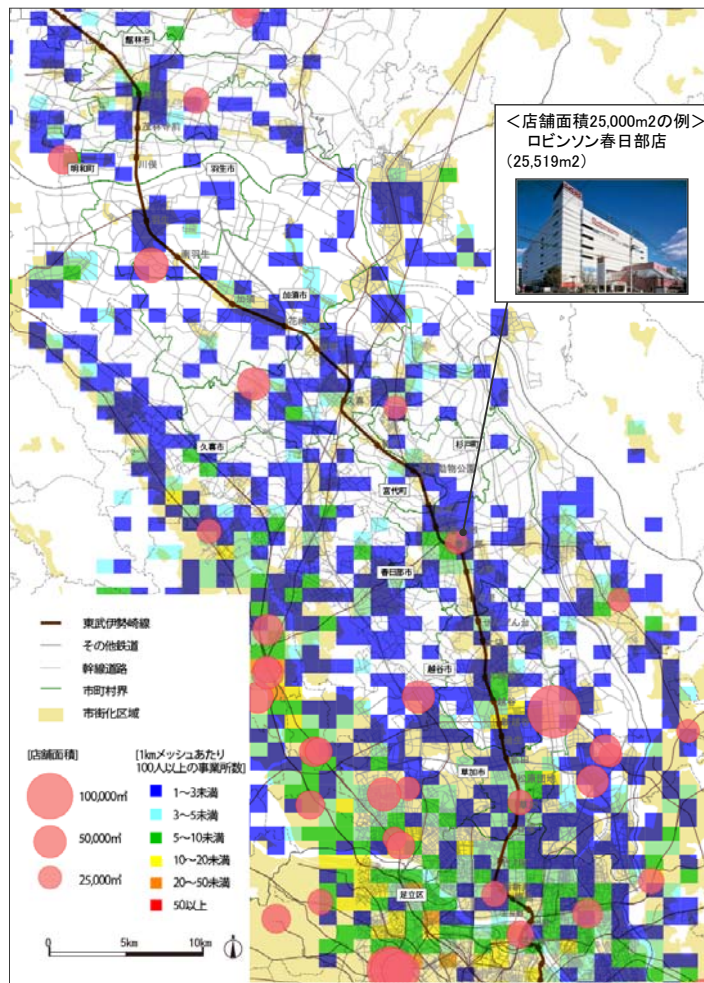
沿線地方公共団体の都市計画マスタープラン等において示されている将来都市像をまとめると、次の点が認められる。

- ① 駅周辺におけるまちづくり拠点形成が、沿線の多くの地方公共団体で示されている。
- ② 各拠点で商業施設、業務施設、文化施設などを主体としたまちづくりとなっており、病院機能の立地については描かれていない。
- ③ 沿線の近隣市区町との連携が計画されていない。

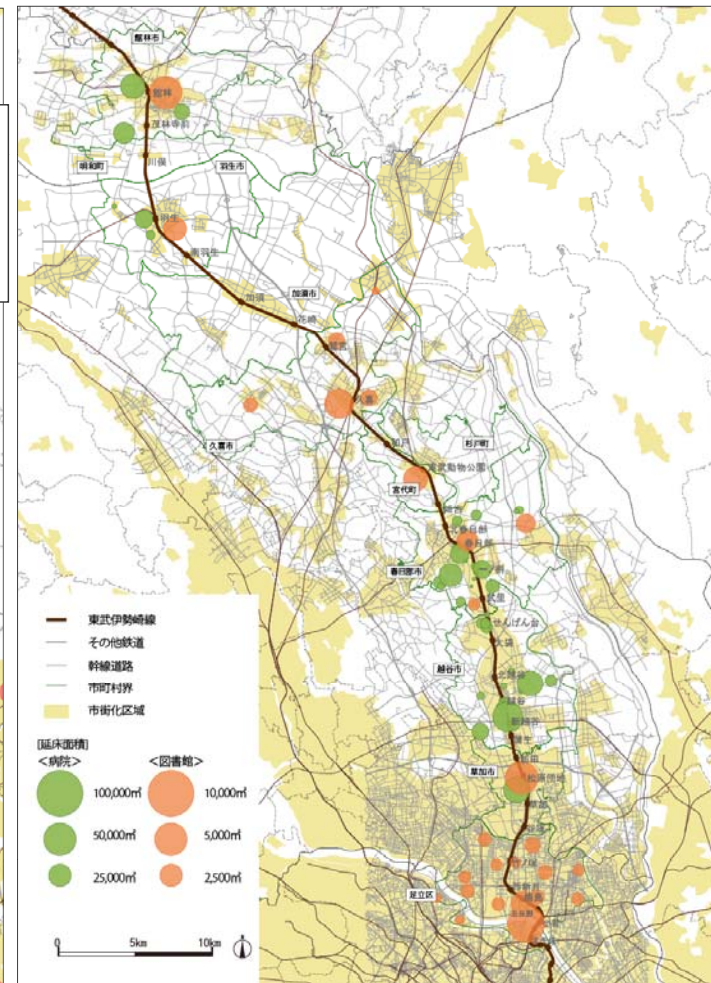
◆沿線自治体の都市計画マスタープラン (中心核・副次核の位置付け)



◆現況の大型小売店と事業所の立地状況 (25,000㎡以上の店舗を対象とし店舗面積に応じたプロット。 事業所数は1kmメッシュあたり100人以上の事業所数を示す)



◆現況の病院と図書館の立地状況 (延べ床面積に応じたプロット)



(出典) 大型小売店データ2012年版、東洋経済新報社、H18事業所企業統計
※2011年12月時点データ

◆沿線自治体の都市計画マスタープラン (中心核・副次核の位置付け)：(拡大図)

